

【静電気防止製品の検証】 2008年10月21日 天気晴れ 室温25℃ 湿度55%

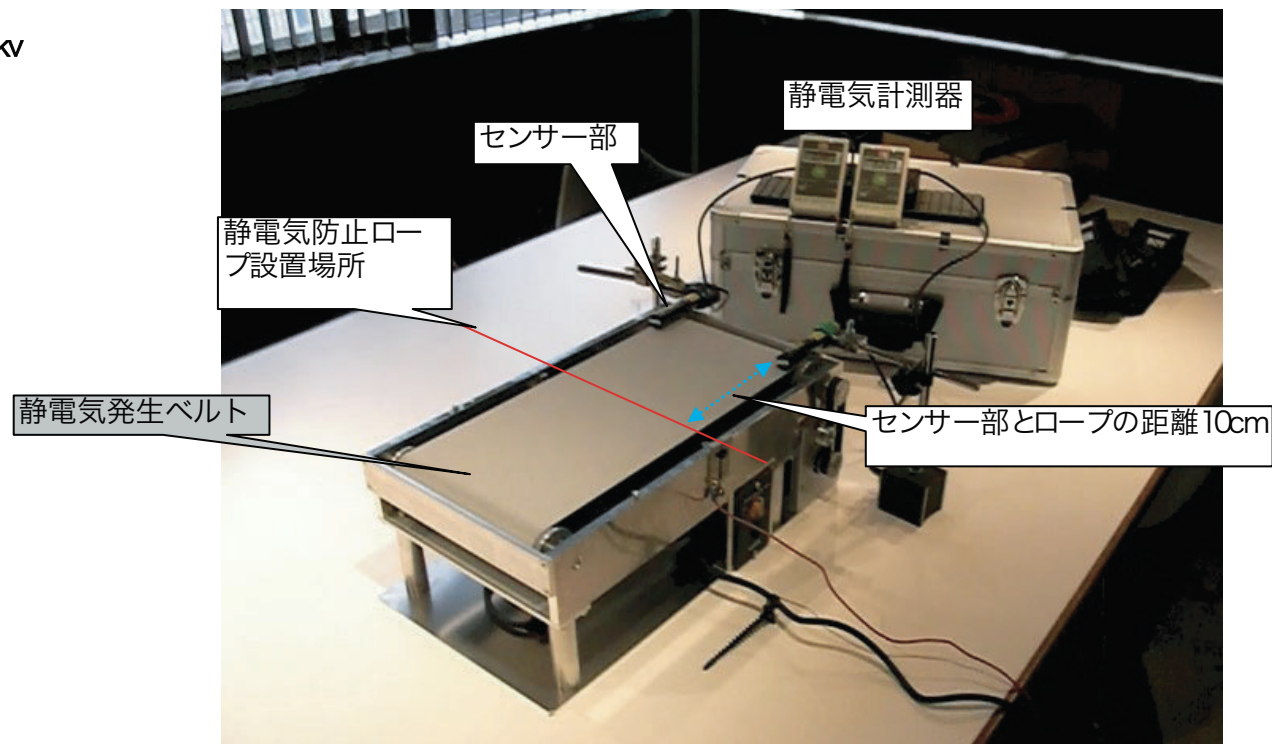
- ① センサーから10cmの位置に1本設置
- ② センサーから10cmの位置に2本設置
- ③ センサーから10cmの位置に3本設置
- ④ ロープが濡れている場合
- ⑤ ④の濡れたロープが乾いた状態
- ⑥ ロープ全面にインキ（乾燥状態）が付着している状態
- ⑦ センサーから1cmの位置に1本設置
- ⑧ 除電効果が現れるのに必要な距離

※静電気の数値は常に変動しているの、表示した最低値ー最高値をAとし、一番多く表示した数値をBとした。

※静電気はベルトを回転させて発生させています。

静電気防止製品を使用していない状態の静電気 36.2-41.7kv

kv	ロープ		ワイヤー	
	A	B	A	B
①	60-125	85	66-10.3	80
②	46-90	60	49-8.2	65
③	46-89	55	42-7.3	55
④	60-10.6	90	-	-
⑤	56-10.0	85	-	-
⑥	7.0-13.6	90	-	-
⑦	4.3-7.1	55	4.7-8.0	5.6
⑧	10mm		12mm	



結果

静電気防止ロープ、ワイヤーの除電効果はほぼ同等。①参照

・ロープの本数を増やすことにより除電効果は上がる。ただし、本数を増やして得られる除電効果はそれほど大きくない。①②③参照

静電気防止ロープは濡れていても除電効果に影響は与えない。①④参照

・ロープにインキ等が付着すると除電効果は若干低下する。①⑥参照